# 幼児期におけるキャリア教育の実践に関する検討
## －キャリア教育発達過程の立案から－

# Study on the Practice of Career Education in Early Childhood
## －from the Planning of Career Education Development Process－

（2016年３月31日受理）

平松美由紀　　鷹取　好子*
Miyuki Hiramatsu Yoshiko Takatori

Key words：幼児教育，キャリア教育，指導計画

## 要　　約

本研究は，幼児期におけるキャリア教育のあり方について検討することを目的とする。すなわち，幼稚園における保育実践の中でキャリア教育の視点からの実践は何を視点とするか，また，実際に幼児の育ちは何を視点に看取るかについて検討することを目的とした。N町立C幼稚園で2015年５月～2016年１月の期間に４歳児23名，５歳児28名の日々の保育を映像記録と担任による実践記録を収集した。これをもとに2002年国立教育政策研究所が提示したキャリア教育４領域８能力の枠組みと照らし合わせ，教育課程をもとに長期指導計画と短期指導計画の作成を試みた。その結果，２年間の保育実践を進めるキャリア教育の発達過程表を作成することが可能となった。保育実践において指導計画は必須のものである。幼児一人一人の確かな発達を保障するために，日々の保育を意図的・計画的に構成する保育者の指標となるからである。今後，２年間の長期指導計画をもとに短気指導計画への反映を試行し，幼児期の教育におけるキャリア教育の位置づけを確かなものとして実践に取り入れることも検討していきたい。

## Ⅰ．緒　　言

近年，核家族化，少子化，情報化といった社会の急激な変化に伴い，幼児を取り巻く環境は大きく変化している。

とりわけ，ＩＴ化に代表されるように，幼児の生活は直接体験よりもバーチャルな世界での間接的体験が増加し，言語的・非言語的コミュニケーション能力の低下が懸念されていることは保育現場においても周知の通りである。こうした情報化社会は知識やあらゆる情報を簡単に得ることを可能とするが，実体験の乏しさから，幼児が心を揺さぶられる感情体験の減少は否めない。生活が便利になる一方，食生活や生活リズムの乱れ，自発性・自制心・忍耐力の低下といったことが幼児の生活の中で大きな問題となっている。

本来，幼児の頭と心と体は，幼児期における遊びと生活を通して培われる。そして，それらを基盤とし，一人一人の幼児に芽吹いた「知りたい」「やってみたい」といった意欲をたくましく育てていくことが，小学校以降の学習において大きく成長する可能性を拓くことに繋がるのである。そのためには，幼児期に豊かな直接的・具体的な体験を積み重ね，身体感覚（身体に感じる）を研ぎ澄まし，幼児の主体性を伸長させていくことが保育の根源であることは言うまでもない。

2004年，「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」において，各学校段階を通じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が提言され，キャリア教育の必要性や意義の理解は学校教育の中で高まり，実践の成果も上がってきた。しかし，報告書がキャリア教育を「新しい教育活動を指すものではない」としたこ

*元奈義町立中央東幼稚園

とで，従来の教育活動のままでよいと誤解されたり，「体験活動が重要」という側面のみをとらえて職場体験＝キャリア教育とみなしたりするなど，その受け止め方や実践の内容・水準に大きなばらつきがあることが課題となった。こうした中で，「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」中央教育審議会は，キャリア教育・職業教育の基本的方向性，発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実など，本来の理念に立ち返ったキャリア教育の理解の共有の重要性を指摘しつつ，キャリア教育の基本的方向性を示した。すなわち，キャリア教育とは「一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育」である。キャリア教育は，特定の活動や指導方法に限定されるものではなく，様々な教育活動を通して実践されるものであり，一人一人の発達や社会人・職業人としての自立を促す視点から，学校教育を構成していくための理念と方向性を示すもので，その基本的方向性は，①幼児期の教育から高等教育まで体系的にキャリア教育を進めること，②その中心として，基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに，社会・職業との関連を重視し，実践的・体験的な活動を充実することにあるとした。つまり，「キャリア教育とは一人一人の社会的・職業的自立に向け，必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して，キャリア発達を促す教育である」との理解に立ち，その推進を図ろうとするとき，キャリア発達，すなわち社会的・職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度の内容と育成の過程が示されなければならないのである。幼児期の教育においてキャリア教育の実践を進めるとき，生涯にわたる人格形成の基礎を培うという目的を見失わず実践するために保育者はどのように実践すべきかについて考えてみたいところに本研究の動機がある。

## Ⅱ．研 究 の 目 的

本研究は，幼児期におけるキャリア教育のあり方について検討することを目的とする。すなわち，幼稚園における保育実践の中でキャリア教育の視点からの実践は何を視点とするか，また，実際に幼児の育ちは何を視点に看取るかについて検討することを目的とした。

## Ⅲ．研 究 の 方 法

１．研究対象

Ｎ町立Ｃ幼稚園：４歳児23名　５歳児28名

４歳児担任：W教諭（３年目）

５歳児担任：Ｙ教諭（１年目）

主幹教諭：Ｔ教諭（32年目）

２．研究期間

2015年５月～2016年１月

３．研究方法

毎月１回の保育観察による映像記録と担任による幼児の保育実践記録をとる。

これをもとにキャリア教育の視点から幼稚園における指導計画を立案する。

## Ⅳ．結 果 と 考 察

１．キャリア教育を視点とした指導計画の見直し

保育実践を行う上で重要な指標は，教育課程をもとに作成される長期・短期の指導計画である。これを抜きに保育実践は成立しない。そこで，まず，主幹教諭を中心に現在ある指導計画をもとにキャリア教育の視点について見直し，キャリア教育における発達過程表の作成を実施した。キャリア教育において2002年国立教育政策研究所が示した４領域８能力の枠組みをもとに，幼児期のキャリア教育で育てたい能力や態度を考えることが必要となる。この枠組みは以下に示す通りである。

①　基礎的・汎用的能力とは何か

「基礎的・汎用的能力」は，「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解･自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の４つの能力によって構成される。これらの能力について，2011年中教審の答申では次のように述べている。

> ○これらの能力は，包括的な能力概念であり，必要な要素をできる限り分かりやすく提示するという観点でまとめたものである。この４つの能力は，それぞれが独立したものではなく，相互に関連・依存した関係にある。このため，特に順序があるものでは

なく，また，これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではない。
○これらの能力をどのようなまとまりで，どの程度身に付けさせるのかは，学校や地域の特色，専攻分野の特性や子ども・若者の発達の段階によって異なると考えられる。各学校においては，この４つの能力を参考にしつつ，それぞれの課題を踏まえて具体の能力を設定し，工夫された教育を通じて達成することが望まれる。その際，初等中等教育の学校では，新しい学習指導要領を踏まえて育成されるべきである。
（中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年１月31日）

◇ 人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は，多様な他者の考えや立場を理解し，相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに，自分の置かれている状況を受け止め，役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し，今後の社会を積極的に形成することができる力である。

この能力は，社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で，基礎となる能力である。特に，価値の多様化が進む現代社会においては，性別，年齢，個性，価値観等の多様な人材が活躍しており，様々な他者を認めつつ協働していく力が必要である。また，変化の激しい今日においては，既存の社会に参画し，適応しつつ，必要であれば自ら新たな社会を創造・構築していくことが必要である。さらに，人や社会とのかかわりは，自分に必要な知識や技能，能力，態度を気付かせてくれるものでもあり，自らを育成する上でも影響を与えるものである。具体的な要素としては，例えば，他者の個性を理解する力，他者に働きかける力，コミュニケーション･スキル，チームワーク，リーダーシップ等が挙げられる。

◇自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は，自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について，社会との相互関係を保ちつつ，今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に，自らの思考や感情を律し，かつ，今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。

この能力は，子どもや若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中，「やればできる」と考えて行動できる力である。また，変化の激しい社会にあって多様な他者との協力や協働が求められている中では，自らの思考や感情を律する力や自らを研鑽する力がますます重要である。これらは，キャリア形成や人間関係形成における基盤となるものであり，とりわけ自己理解能力は，生涯にわたり多様なキャリアを形成する過程で常に深めていく必要がある。具体的な要素としては，例えば，自己の役割の理解，前向きに考える力，自己の動機付け，忍耐力，ストレスマネジメント，主体的行動等が挙げられる。

◇ 課題対応能力

「課題対応能力」は，仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力である。

この能力は，自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。また，知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ，従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。さらに，社会の情報化に伴い，情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要である。具体的な要素としては，情報の理解・選択・処理等，本質の理解，原因の追究，課題発見，計画立案，実行力，評価･改善等が挙げられる。

◇ キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は，「働くこと」の意義を理解し，自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け，多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら，自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。

この能力は，社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力である。具体的な要素としては，例えば，学ぶこと・働くことの意義や役割の理解，多様性の理解，将来設計，選択，行動と改善等が挙げられる。

② 「４領域８能力」から「基礎的・汎用的能力」への転換

これらの「基礎的・汎用的能力」は，「４領域８能力」をはじめとしたこれまでの諸提言を踏まえ，既に共通する要素が多く含まれているとの認識の下で，それらを再構成したものである。「４領域８能力」と「基礎的・汎用的能力」との関係は次のように整理できる。「基礎的・汎用的能力」を全く新しい能力論の登場として理解するのではなく，「４領域８能力」をめぐる実践上の課題を克服し，よりよい実践に向けて改善を図るための枠組みととらえて活用すべきである。しかし同時に，「４領域８能力」と「基礎的・汎用的能力」との間に見られる次のような差異にも留意する必要がある。例えば下図が示すように，「４領域８能力」では，「基礎的・汎用的能力」の重要な要素である「課題対応能力」の育成について必ずしも十分な具体性を伴って提示されてこなかった。「４領域８能力」においては，「計画実行能力（目標とすべき将来の生き方や進路を考え，それを実現するための進路計画を立て，実際の選択行動等で実行していく能力）」や「課題解決能力（意思決定に伴う責任を受け入れ，選択結果に適応するとともに，希望する進路の実現に向け，自ら課題を設定してその解決に取り組む能力）」が求められていたものの，自らの将来の生き方や進路とのかかわりを重視した実行力や課題解決の力の育成に力点が置かれており，広く「仕事をする上での様々な課題を発見・分析し，適切な計画を立ててその課題を処理し，解決することができる力」の育成については必ずしも前面に出されてはいなかったと言える。この他，「基礎的・汎用的能力」は，「４領域８能力」においては焦点化されてこなかった「自己管理」の側面，例えば忍耐力やストレスマネジメントなども重視するものである。このように，「基礎的・汎用的能力」は「４領域・８能力」を補強し，より一層現実に即して，社会的・職業的に自立するために必要な能力を育成しようとするものであり，この点を踏まえた実践の改善が求められている。

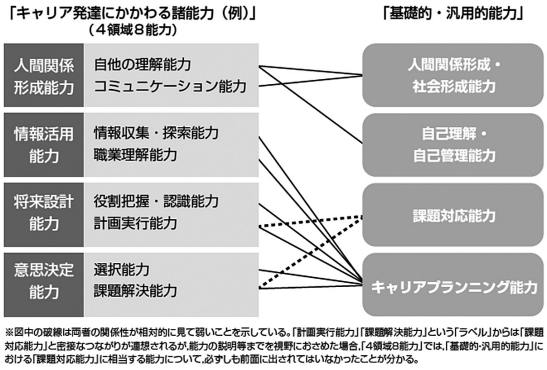


図１．キャリア発達にかかわる諸能力（例）と木曽的汎用的能力の対応関係
引用：文部科学省．「キャリア教育の手引き」
－第１章キャリア教育とは何か－　p15.

２．キャリア発達過程表の作成

これらのキャリア教育の視点をもとに見直しをしたＣ幼稚園の２年間の教育課程の中でのキャリア教育発達過程表が図２の通りである。

図２の左欄に示される４つの基礎的・汎用的能力をもとに２年間で育てたい幼児の実際の姿を各期で取りだすことができた。これは１年間の実際の実践記録をもとに発達の過程を系統的に考えたものである。

１例を説明するとまず，入園時には安心し，園生活を送るスタートであることが重要である。このことを考慮することで初めての社会生活の場となる幼稚園での人間関係形成・社会形成能力においては担任を含む先生の存在は幼児にとって大きい。共に生活する仲間の存在もなしには考えられない。つまり，２年間の幼稚園生活のスタートでは，毎日登園時，降園時に先生や友達とあいさつを交わすことがきっかけとなり，この能力が培われることとなるのである。

さらに，家庭で過ごしてきた幼児が，自分のことを自分でするという生活が初めてスタートする。自分の持ち物の片付け，一人で使用する場ではない保育室やトイレ，園具など他者と共用する上での能力を培うことも重要となる。これは自己理解・自己管理能力である。

また，課題対応能力の育成としては幼稚園での生活の大半である遊びを外しては考えられない。ここでは，幼児自身が主体性を発揮し，幼児の興味・関心に沿った遊びに取り組むことが重要である。幼稚園教育要領では，幼稚園は直接体験の場として環境による教育を基本とし

キャリア教育発達過程

| | 期 | Ⅰ | | Ⅱ | | Ⅲ | | Ⅳ | | Ⅴ | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 4歳児 | 人間関係 社会形成能力 | ・先生や友達とかかわる中で、親しみや安心感を感じる。<br>・先生や友達とあいさつを交わす心地よさを感じる。 | | ・気の合う友達と好きな遊びを楽しむ。<br>・友達の名前と顔がわかり、あいさつを交わす。 | | ・友達と誘い合い、好きな遊びや友達とのやり取りを楽しむ。<br>・先生や友達に自分からあいさつをしようとする。 | | ・友達と共通のイメージをもって遊ぶことを楽しむ。 | | ・遊びの中で、友達とのかかわりを広げていく。<br>・先生や友達の顔を見てあいさつをしようとする。 | | |
| | 自己理解 自己管理能力 | ・園での生活の仕方を知り、自分でしようとする。 | | ・生活の仕方やきまりがわかり、身の回りのことを自分でしようとする。 | | ・生活の仕方やきまりがわかり、身の回りのことは、自分からする。 | | | | ・進級することに期待をもち、自分でできることは進んでしようとする。 | | |
| | 課題対応能力 | ・好きな遊びを見つけて遊ぶ。 | | ・自分のしたいことを見つけて、動いたり遊んだりする。 | | ・少し難しいことにも挑戦してみようとする。 | | ・当番活動の意味や内容など簡単な役割がわかる。 | | ・簡単なめあてをもち、取り組む。<br>・当番活動の仕方がわかり、友達と一緒に最後までする。 | | |
| | キャリアプランニング能力 | ・自分の思いや考えを表情や動作、行動で伝えようとすることの大切さに気づく。 | | ・遊びや生活の中で、友達とかかわる時の必要な言葉を知ったり、自分の気持ちを表現したりする。 | | ・自分の思いや考え、イメージなどを言葉で伝えようとする。 | | ・自分の気持ちや考えを先生や友達に伝えようとしたり、相手の話も聞こうとしたりする。 | | ・自分の思いや考えを相手に言葉で伝えたり、友達の気持ちに気づいたりする。 | | |
| | 期 | Ⅵ | | Ⅶ | | Ⅷ | | Ⅸ | | Ⅹ | | |
| | 月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 5歳児 | 人間形成 社会形成能力 | ・遊びの中で、友達とのかかわりを広げ、友達のよさに気づく。<br>・先生や友達と明るくあいさつを交わす。 | | ・友達と相談したり、自分達で遊びやルールを考えながら遊ぶ。<br>・先生や友達とあいさつを交わす心地よさを味わう。 | | ・友達と相談したり協力しながら遊びを進めていく。<br>・身近な人と親しみをもってあいさつを交わす。 | | ・共通の目的をもって、友達と遊びや生活を進めていく。 | | ・自分の力を発揮をし、友達と協力して遊びや生活を進めていく。<br>・身近な人と進んであいさつを交わす。 | | |
| | 自己理解 自己管理能力 | ・園生活でのきまりや生活の仕方を再確認する。 | | ・園生活のきまりを守ることの大切さに気づき、守ろうとする。 | | ・園生活のきまりは、みんなが楽しく生活するために大切であることがわかり、互いに知らせ合う。 | | | | | | |
| | 課題対応能力 | ・苦手なことにも挑戦しようとする。<br>・身の回りのことや当番活動などを進んでしようとする。 | | ・自分なりの目標をもって取り組もうとする。<br>・周りの人の役に立っていることを喜び、進んで取り組む。 | | ・自分なりの目標に向かって繰り返し挑戦する中で、自分のよさに気づいて積極的に行動しようとする。 | | ・共通のイメージをもって遊びを進める中で友達と協力したり、折り合いをつけたりする。 | | ・就学への期待や自分なりの目標をもち、意欲的に生活をする。<br>・友達と協力し遊びや当番活動を責任もって最後までする。 | | |
| | キャリアプランニング能力 | ・自分の思いや考えを先生や友達に伝えたり聞いたりする。 | | ・感じたことや考えたことを友達同士で伝えたり、話し合ったりする。 | | ・友達が困っていることに気づき自分のこととして一緒に考えようとする。 | | ・自分の思いや考えを友達同士伝え合ったり、友達の思いや考えを受け入れたりしながら遊びを進めていく。<br>・自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりしながら、より遊びが楽しくなるようにする。 | | ・自分の力を発揮したり、友達を励ましたりしながら共通の目的に向かって遊びを進めていく。<br>・友達の思いに気づき、自分の思いを調整しながら、楽しく遊ぶ方法を考える。 | | |

図２．キャリア教育発達過程表

ていると示されている。そして，この環境に幼児が主体的にかかわることで幼児の学びの芽が培われていく。まずは，自分の好きな遊びを見つけることにより，幼児の意欲はより一層高まり，自ら選んだ遊びの何が楽しいか，何に挑戦するか，何にもっと取り組みたいかなど幼児自身が情動を働かせる。ここに課題対応能力の基が培われるのである。人間は能動性を生まれながらにもっている。これを幼児期に培うことは，今後，自分の身の上にどのような課題が生じようとその解決策を自ら探ったり，試行錯誤したりして向き合う力をもつようになる。

最後に，幼稚園では生活を中心とした毎日の中で家族以外の他者の役に立つ経験が保育の中に埋め込まれている。これはキャリア教育におけるキャリアプランニング能力の育成に関与する保育内容である。当番活動や栽培活動，地域交流など，幼児が自分の行動に他者からの感謝を感じる直接体験は，幼児の今後の育ちに大きな影響がある。つまり，他者のために働くことの心地よさを感じることで勤労の意欲の土台が育まれたり，他者の役に立つことを幼児が自分の身体で実感することによって自己肯定感が高まったりする。これはまさに自分の生涯をプランニングできる力となるであろう。

このように一例を示したが，２年間の幼稚園での保育実践を４つの能力における発達過程として整理することで幼稚園におけるキャリア教育は，幼児一人一人の発達の指標として実践に位置付けることが可能となるのである。さらには，小学校以降のキャリア教育へ繋がる土台として幼稚園でのキャリア教育が確かな実践となるのである。

## Ⅴ．ま　と　め

本研究では，幼児期の教育におけるキャリア教育の実践について検討することを目的とした。実際に幼稚園の1年間の保育実践記録をもとに教育課程を土台とした

キャリア教育発達過程について幼児の育ちの姿から検討することができた。毎月の実践記録をもとに各期における４領域８能力と基礎的・汎用的能力の関連性につながる幼児の姿を整理を試みた。その中で基礎的・汎用的能力にまず視点を置き，幼児の姿を看取ることで幼児期の教育が目指す「生涯にわたる人格形成の基礎を培う」という目的と合致し，幼児期に育てたい力が明確になることが明らかとなった。このことより，実践現場においては，幼児期の教育に欠くことのできない指導計画の立案に着手することが何より不可欠であることがいえる。また，この発達過程を基本に日々の保育実践の指導内容を精査することは，幼児期の教育とキャリア教育とが密接な関連をもつこともいえる。つまり，幼児期の教育が基本としている「生涯にわたる人格形成の基礎を培う」ことは，キャリア教育が目指す「自分らしい生き方を実現する」ことと合致する。人間が一生を生きる中で，様々な役割を果たしながら自分らしい生き方を構築し，自らの役割の価値や自分とその役割との関係を自らが見出すことを積み重ねる教育の土台となる幼児期の教育の重要性はいうまでもない。保育現場で日々の実践を積み重ねるために，キャリア教育を内包する指導計画を立案することで一人一人の幼児の育ちを保障する保育を展開することを可能とするのである。

## 引用・参考文献

金井壽宏(2003)キャリア・デザイン・ガイド　自分のキャリアをうまく振り返り展望するために，白桃書房.

金井壽宏（2010）「キャリアの学説と学説のキャリア」，日本労働研究雑誌，2-603：4-15.

厚生労働省（2010）「保育所における自己評価ガイドライン」：1-19.

厚生労働省（2013）「保育を支える保育士の確保に向けた総合的取組」：1-19.

文部科学省(2008)幼稚園教育要領解説書,フレーベル館.

森久子（2005）「キャリア・アンカー――キャリア・アンカーの芽―」，日本大学大学院総合社会情報研究科紀要，6：483-494.

森本美佐・林悠子・東村知子（2013）「新人保育者の早期離職に関する実態調査」，奈良文化女子短期大学紀要，44：101-109.

濱名陽子（2014）「幼稚園におけるキャリア教育の一考察」，関西国際大学教育総合研究叢書，7:143-152

大宮勇雄（2006）保育の質を高める，ひとなる書房.

住田陽子・坂口桃子・森岡郁晴・鈴木幸子（2010）「看護師のキャリア・アンカー形成における傾向」，日本看護研究学会雑誌，33-2：77-83.

吉浦昌子・佐藤史人(2008)「和歌山大学経済学部生のキャリア・アンカーと希望職業の相関に関する研究」，和歌山大学教育学部紀要，59：107-114.